



障害者自立のための ストップモーションアニメCM制作事業 事業報告書



もくじ

・本事業を終えて	1
・1. 本事業の主旨・目的	2
・2. 本事業の実施体制	2
・3. 活動スケジュール	3
・4. 活動内容		
① 特別講習会	4
② 制作講座(1日目)	5
② 制作講座(2日目)	6
② 制作講座(3日目)	6
② 制作講座(4日目)	7
制作講座後に行ったアンケート集計結果	8
③ プロトタイプ版CM制作(分娩見守りシステム)		
企画概要	9
プロット	9
プロダクションノート		
1. 企画	10
2. 制作準備	10
3. ミニチュア作成	10
4. セット組立	12
5. 撮影準備	12
6. 撮影	13
7. 編集	13
④ プロトタイプ版CM制作(ふるさと応援CM)		
企画概要	14
プロット	14
プロダクションノート		
1. 企画	15
2. 撮影	15
3. 収録及び編集	17
⑤ Web サイト構築	17
⑥ 事業報告会	18
・5. 活動の成果・課題	18
・6. 事業関係者一覧	19
・7. 謝辞	19

【本事業を終えて】

平成 19 年 7 月に障害者保健福祉推進事業の採択を受け、進めてまいりました「障害者自立のためのストップモーションアニメ CM 制作事業」が平成 20 年 3 月に無事終了しました。参加いただいた皆様、様々な面でご協力いただいた方々のおかげでほぼ予定通りの事業を行うことができましたことを、この場を借りてお礼を申し上げます。

さて、本事業の主旨である「障害者が参加して就労に向けた映像制作を行う」というこれまで前例のない内容で企画したわけですが、実際何が出来て、どのようなものが出来上がるかといった先行きの見えにくいことが多く、実施する前は不安な面が多々ありました。「とにかく新しい切り口で障害者の就労に向けた取り組みをしよう」という勢いで進めていく中で、映像制作に興味や関心のある障害者の方が予想以上に多く、結果として 10 名を超える方に参加いただいたことから、この事業を実施した甲斐があったと思っています。

今後継続的に障害者の方に映像制作してもらおううえで、技術面や実施体制の面で様々な課題がありますが、基礎を固める初年度としてはそれなりの成果を上げることが出来ました。さらにその成果を花咲かせるため次年度以降もみなさまの参加とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

社会福祉法人まつえ友愛会
障害福祉サービス事業所 you 愛
プロジェクトマネジャー 安部 敬史

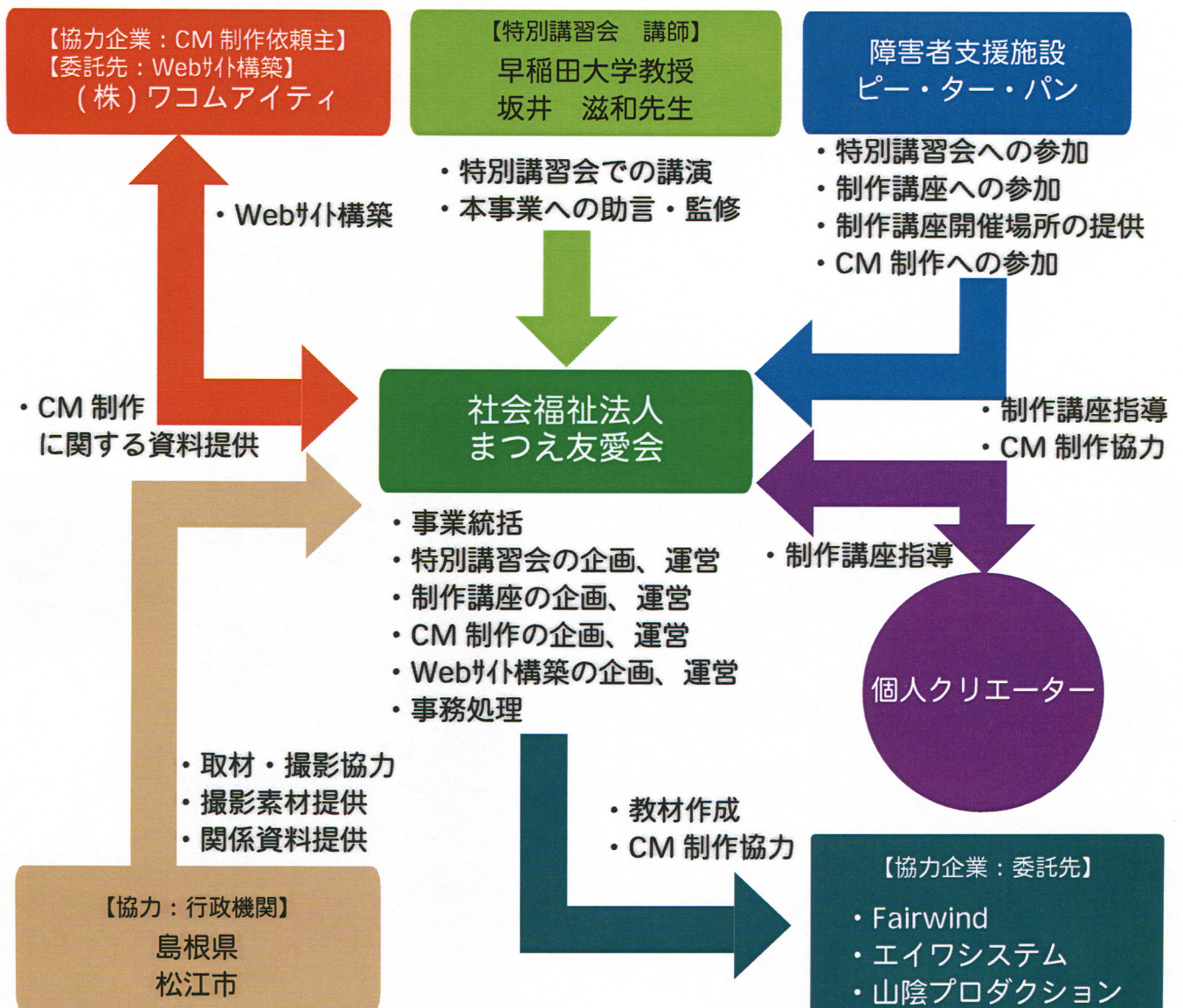


1. 本事業の主旨・目的

平成 18 年 4 月に障害者自立支援法が施行され、社会参加を希望する障害者が増えた反面、地方における就労の機会や形態には既存の内容では限界があります。当法人が運営を行っている障害福祉サービス事業所 you 愛が就労継続支援サービスの一環として、ストップモーションアニメーション技術を使った地元企業の CM として制作し、障害者の新たな就労手段として教育およびビジネス展開するための事業を実施しました。CM 素材には地元の地域資源（観光名所、特産品、史跡等）を活用し、Web サイトで出来上がった CM を配信します。

2. 本事業の実施体制

本事業は、次のような体制で実施しました。



3. 活動スケジュール

日時	実施内容	場所/委託先
平成 19 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・早稲田大学教授 坂井滋和先生、(株)ワコムアイティ、谷さんと初会合。事業についての説明、依頼内容、今後のスケジュールについて確認。 	社会福祉法人 まつえ友愛会
平成 19 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者支援施設ピー・ター・パンへ、本事業の説明および参加者募集の案内を行う。 ・ストップモーションの各種テスト撮影を実施。(宍道湖の夕日等) 	
平成 19 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講習会開催準備(会場確保、講習会内容の検討・決定、資料準備等) ・制作講座教材作成(テキスト、サンプルムービー等の作成) 	
10月30日(火) 13:30～15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講習会開催「ストップモーションアニメの世界」 	テクノアークしまね 4F 小会議室
11月5日(月) 13:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップモーションアニメ制作講座(第1回) 	障害者支援施設 ピー・ター・パン
11月6日(火) 13:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップモーションアニメ制作講座(第2回) 	障害者支援施設 ピー・ター・パン
11月12日(月) 13:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップモーションアニメ制作講座(第3回) 	障害者支援施設 ピー・ター・パン
11月13日(火) 13:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップモーションアニメ制作講座(第4回) 	障害者支援施設 ピー・ター・パン
平成 19 年 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・プロトタイプ版 CM 企画会議、絵コンテ作成 ・プロトタイプ版 CM 制作に参加する障害者の選出、決定 ・CM に使用するクレイモデル、背景の制作開始 ・Web サイト構築開始 	
平成 20 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影素材調達 ・ストップモーション撮影、素材写真撮影 ・Web サイト完成 	
平成 20 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップモーション撮影、素材写真撮影 ・撮影素材後処理(マスク処理、画像合成等) ・仮編集(素材組み合わせ、BGM 挿入) ・販促用チラシデザイン作成開始 	
3月2日(日) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・「障害者自立のためのストップモーションアニメ CM 制作事業」事業報告会 	社会福祉法人 まつえ友愛会
平成 20 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・販促用チラシ完成 ・ナレーション、アフレコ収録 ・本編集 ・プロトタイプ版 CM 配信開始 	社会福祉法人まつえ友愛会

4. 活動内容

① 特別講習会

- 日時：平成 19 年 10 月 30 日（火） 13:30～15:00
- 場所：テクノアークしまね 4F 小会議室
- 参加者：24 名（うち障害者 20 名）
- 題目：「ストップモーションアニメの世界」
- 内容：1. 身近になった映像作り
2. デジカメとパソコンを使ってアニメーション作り
3. メッセージを伝えるための映像とは
4. 映像制作の基礎と実際

■講師：早稲田大学教授（大学院国際情報通信研究科）
坂井 滋和氏



<講師プロフィール>

学会活動	アジア デジタルアート アンド デザイン学会理事 コンテンツクリエイション アンド コミュニケーション 学会理事
社会活動	財団法人 日本科学映像協会評議員 財団法人 ニューテクノロジー財団評議員 財団法人 九州ヒューマンメディア創造センター評議員
主な略歴	1980 年 東京工業大学工学部卒業 1980 年 株式会社東通入社（映像制作事業部） 1984 年 フリーランス CG 映像クリエイター 1994 年 九州芸術工科大学芸術工学部助教授 2001 年 早稲田大学大学院教授（現職）
主な作品	1987 年 ETV 特集「コンピュータの時代」（NHK） 1989 年 NHK スペシャル「銀河宇宙オデッセイ」 1992 年 NHK スペシャル「ナノ・スペース」 1994 年 NHK スペシャル「生命 40 億年はるかな旅」 1998 年 ETV スペシャル「デジタル宇宙図鑑」 1999 年 NHK スペシャル「海・知られざる世界」 2001 年 NHK スペシャル「宇宙・未知への旅立ち」 2004 年 NHK スペシャル「地球大進化」

平成 19 年 10 月 30 日に、本事業のキックオフとして現在早稲田大学国際情報通信研究センターおよび CG クリエーターとして活躍されている坂井滋和先生をお招きして特別講習会を開催。

この講習会には、今後本事業に参加希望された障害者支援施設ピー・ター・パンの利用者様をはじめ当事業所の利用者様、さらに本事業にご協力いただいている企業のクリエイターの方、総勢 24 名の方が参加。

はじめに、映像の歴史や「映像とは何か」「ホームビデオで撮った映像と映像制作との違い」など基本的な事柄から説明された。「ただ単にビデオカメラのボタンを押して被写体を撮影することでは“映像作り”とは呼べない」つまり映像を“つくる”ためにいくつかの作業工程が必要で、企画やコンセプト作り、資料収集を行う「構想」、それを実現するためのストーリーや絵コンテ作りなどの「計画」という作業がとても重要であるということも学んだ。また、作業工程の中で、仕事として収益性が高いのもこの工程であるといったビジネスとしての映像制作のお話もしていただき、参加者の方も興味深そうであった。また、5W1H や起承転結など、制作する映像を企画する際の具体化の方法も紹介。映像制作は「何をどのように伝えるか」が大切なこと、ストーリーも「短くて単純なほどよい」といったことは、制作の仕事全体に通じることであり非常に印象的であった。一枚一枚撮影した静止画を連続して再生することで動いているように見えるストップモーションアニメーションの原理の説明の後、障害者の方でも面白い映像を作ることができる事例として坂井先生が沖縄で撮影された空の映像を上映。その映像は、空を日没から日の出まで一定間隔で撮影したもので、雲の動きだけでなく星の動きも映し出されていた。撮影に使用されたのは、民生用のデジタルカメラで特別高価なものではない。これは現在のデジタルカメラが高性能になっているため、夜であっても明るさを保つことが可能であり、特別な技術がなくても撮影できるよう様々な機能が自動化されているため、障害者の方でも同様の撮影ができるとのこと。このようにストップモーションという撮影方法は障害者の方が映像制作に関わる上で可能性が広がるものであることがわかった。

後半では、先生が制作に参加された NHK の番組の CG 映像制作を紹介いただき、実際のプロの映像制作現場のお話をうかがった。制作のプロセスや実際に使用されたストーリーボードも見せていただくことができたのは貴重な経験となった。

1 時間半という短い時間であったが、日ごろ聞くことのできない最先端の映像制作の話や、障害者でも映像制作を仕事にできるチャンスがあることなどをうかがい、参加者全員、非常に有意義な時間を過ごすことができた。

4. 活動内容

② 制作講座 (1 日目)

- 日時：平成 19 年 11 月 5 日 (月) 13:30 ~ 16:30
- 場所：障害者支援施設 ピー・ター・パン
- 指導：映像クリエイター 山本崇氏、他まつえ友愛職員 1 名
- 参加者：10 名 (うち障害者 10 名)

■内容：

1. はじめに
2. 映像のしくみ
3. ストーリーをつくろう
4. ストーリーに登場する人物や背景
5. 絵コンテをつくろう

制作講座は全 4 回にわたって障害者支援施設ピー・ター・パン様の事務所 2 階を会場に制作講座を開催。内容は、本事業の中核であるストップモーションの映像制作に必要な基礎知識の習得と実習を行った。

第 1 日目は、イントロダクション、ストーリー作り、キャラクターデザイン作成、絵コンテ作成までの内容で構成。

参加者の方の障害状況やパソコン操作等のスキルをもとに参加者の方を 2 グループ (A、B グループ) に編成。特別講習会で坂井先生からお話があったように「構成、計画」の作業が制作の要であるということで、各グループで企画を練っていった。

ワークシートを元に、5W1H の面から今回制作するストーリーを考えていった。初めてということもあり、ストーリーのアイデアや発想ができない状態であったが、興味のあること、簡単なこと、身近な出来事、荒唐無稽なこと、何でもいいということでグループのメンバー同士で話し合いをするうちに各自の 5W1H が完成。次にそれぞれの内容を発表しあい、今回グループで制作するものを一つ選んだ。

A グループは雲になりたい綿菓子主人公の「わたがしくん」、B グループはお酒に酔って銀座を歩いていた女性が遭遇する不可思議な世界「銀座、夜の帳の夢うつつ」という作品に決定。5W1H から起承転結に物語を膨らます作業と、登場する人物や背景、小物のデザインなどを作る作業に分担。

必要な情報やデザインは、インターネットの画像検索を利用した。手書きでデザインを作成する一方、どのような材料で作成するかを検討をすすめた。材料は、紙粘土、クレイ用油粘土、割り箸、画用紙、フェルト、発泡材などを準備した。

絵コンテ作成は時間的に厳しかったため 3 日目の撮影までの宿題となった。「映像を見る立場から作る立場へ」はじめての作業の連続にもかかわらず、一番難しく大切な作業をグループの全員で力を合わせてがんばって進めることができた。



【企画・ストーリー作りの様子】



【クレイモデル・背景作成の様子】



【企画・ストーリー作りの様子】



【クレイモデル・背景作成の様子】

4. 活動内容

② 制作講座 (2 日目)

- 日時：平成 19 年 11 月 6 日 (火) 13:30 ~ 16:30
- 場所：障害者支援施設 ピー・ター・パン
- 指導：映像クリエイター 山本崇氏
クレイモデルアーティスト 谷あい氏
他、まつえ友愛会職員 1 名
- 参加者：10 名 (うち障害者 10 名)

■内容：

1. アニメーションの方法
2. 道具の確認
3. クレイモデルをつくろう
4. 背景の制作

二日目は、一日目に決定したストーリーに登場するキャラクター、小物、背景などの作成した。昨日作成したキャラクターなどの手書きのデザインをもとに作業を分担。どのような材料で作成するか。準備した材料の中からすぐに決まるものもあればなかなか決まらないものあり、悩みながら制作。

主な登場人物は、クレイアニメ用油粘土で制作。油粘土自体、温めない柔らかくならないため、手のひらでしばらくこねなくてはならない。片手しか使い人や握力が弱い人は紙粘土で背景や小物を作成することにした。

粘土を使った作業は子供の頃以来ということで懐かしいという人もいた。思うような形を作るのはなかなか難しい様子であった。

A グループは、主人公の「わたがしくん」や小物の綿菓子、りんごあめを制作。また舞台が祭りで賑わう神社の参道ということもあり、屋台も作る必要があった。サポートとしてクレイモデルアーティストの谷さんにサンプルの屋台を作ってもらった。竹ひごと画用紙を使って作成された屋台は見事なもの。登場人物の男性と女性をクレイで制作してみたが、かなり難しい様子。

B グループでは銀座の通りを表現するためアスファルトの歩道、マンホール、電柱などの小物の表現に苦心。思うような表現ができない様子。さらに宇宙や惑星の表面など SF 的な場面設定も必要。材料の中からガーデニング用の材料や実際の砂を敷き詰めるなど工夫の連続。問題の主人公である女性は、がんばって油粘土で作成した。

終了時間が近づいても、両グループともまだモデルの作成が終わる気配がないため、三日目もモデル、背景作りを継続することとなった。

② 制作講座 (3 日目)

- 日時：平成 19 年 11 月 12 日 (月) 13:30 ~ 16:30
- 場所：障害者支援施設 ピー・ター・パン
- 指導：映像クリエイター 山本崇氏、他まつえ友愛会職員 1 名
- 参加者：9 名 (うち障害者 9 名)

■内容：

1. 背景の制作 (3 日目の続き)
2. 撮影する前に【映像の基礎知識】
3. アニメーションの表現について
4. アニメーションの動きを確認しよう
5. ストップモーションアニメーションの撮影に使うもの
6. ストップモーションアニメーションの撮影方法
7. ストップモーションアニメーションを撮影しよう

三日目は、二日目に終わらなかったモデル、背景作り継続して行った。

A グループは絵コンテができていなかったため指導担当が作成したものを使用することになった。それぞれのカットごとに登場するキャラクターや小物、背景を確認。やはり、登場予定の二人の男女をどうするかが問題となった。グループで話し合った結果、参加者自身をカメラで撮影し登場させることに決定。季節が夏祭りの時期ということで、この季節にも関わらず T シャツになって正面、横から撮影し、それをパソコンで画像加工し印刷、切り抜いて動かすことにした。

その他、わたがしくんが買われる場面では受け渡しの手のアップが必要であり、それはパソコンで描画したものを印刷、紙で動きを表現に変更した。

B グループは、銀座を表現するための背景写真を探した。昨日まで作成したマンホールの蓋が、それらしく見えないため、コンパスカッターを使いきれいに円形に切断する工夫をしました。この他、小物を設置して背景全体を組み上げる作業を進めていきました。

終了時間までに、四日目の撮影に必要な作成作業はおおよそ完了しました。いよいよ明日は撮影です。

4. 活動内容

② 制作講座 (4 日目)

- 日時：平成 19 年 11 月 13 日 (火) 13:30 ~ 16:30
- 場所：障害者支援施設 ピー・ター・パン
- 指導：映像クリエイター 山本崇氏、他まつえ友愛会職員 1 名
- 参加者：8 名 (うち障害者 8 名)

■内容：

1. ストップモーションアニメーションを撮影しよう
(3 日目の続き)
2. 撮影したアニメーションを観てみよう
3. インターネットの映像ファイルについて

最初に、撮影に使用する機材の説明や役割の説明を行った。使用する機材は、『デジタルビデオカメラ』、『三脚』、『パソコン』、『ストップモーション撮影機能のあるソフトウェア』、『パソコンとビデオカメラをつなぐ IEEE1394 ケーブル』、『照明スタンド』を図のように接続。

各グループに 1 環境ずつ設定後、グループ内で役割を決定。

役割は「監督」「撮影」「モデルを動かす人」に分け、それぞれ作業内容を確認。いよいよ撮影を開始。

A グループの撮影は、絵コンテに合わせて撮影を行った。絵コンテの順番に差撮影 (いわゆる順撮り) で行った。最初にカットに合わせてカメラの位置や角度、撮影する範囲 (画角) を決めようとしたが、思うようにできない。画角が広すぎて背景の範囲を超えてしまうため、急遽追加の画用紙を手を持って撮影するなどやってみないとわからないことがいろいろ発生した。わたがしくんが買われていく場面や人物が登場する場面は、印刷した紙を動かして撮影。この撮影は床に背景の画用紙をおき、カメラを下向きにして撮影を行う方法をとった。蝶やわたがしくんが空に飛んでいく場面の撮影も、最初釣り糸で引っ張りあげながら撮影したが、思うような場所を固定できないため、同じような方法でカメラを下向きにして撮影することで対応した。

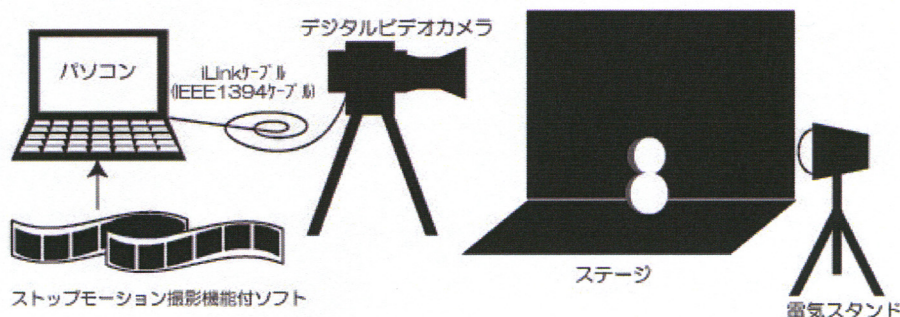
B グループは絵コンテの順番ではなく同じシーンでの撮影をまとめて撮る方向に進めた。こうすることで撮影作業を効率よく進めることができる。このような方法で撮影した映像は後で「編集」し、絵コンテの流れに合わせる。A グループ同様に B グループも空中を落下する場面があったが、こちらは釣り糸で吊り下げた状態で動かす方法を採用。吊り下げるストップモーションアニメーションはモデルを動かすとき基本的にカメラを固定して撮影する必要がある。しかし心配していたように撮影の際にカメラが動いてしまうということが起こってしまった。それでも、全員協力してなんとか時間内に全てのカットの撮影を終えることができた。

A グループ、B グループに分かれて撮影を進める一方、各グループから 1 名ずつ編集で使用する BGM (映像のバックに入れる音楽) や SE (効果音) など音素材の選定作業を行った。使用する音楽や効果音は著作権フリーの素材集を聞きながら選択。映像に合う音楽や音を見つける作業は時間がかかったが、こちらも無事終了することができた。

時間ぎりぎりまで撮影が続き、編集作業は後日編集担当を決めてすすめることとなった。撮影した素材データと選定した音楽、効果音の音データを担当に渡し、4 日間の制作講座を終了した。

慣れない作業、初めての作業の連続であったが、参加者全員楽しくまた力を合わせて取り組み、非常に有意義な時間を過ごすことができた。

最後に、参加者に特別講習会、全 4 回の制作講座の感想と 12 月からの CM 制作に向けた希望についてアンケートを配布。後日回収し集計した。



【機器接続図】

4. 活動内容

【制作講座後に行ったアンケート集計結果】

<配布 14 名中回答 10 名>

特別講習会について

興味

- ・とても興味を持てた (8 名)
- ・多少興味を持てた (2 名)
- ・特に興味をもたなかった (0 名)
- ・つまらなかった (0 名)

理解

- ・だいたい理解できた (5 名)
- ・少しは理解できた (4 名)
- ・ほとんど理解できなかった (0 名)
- ・わからなかった (0 名) 無回答 (1 名)

時間

- ・もっと長いほうがよかった (7 名)
- ・ちょうどよかった (2 名)
- ・もっと短いほうがよかった (1 名)

制作講座について

興味の持ったものを選んでください。

1. 映像制作全般 (5 名)
2. 企画、シナリオ作り (3 名)
3. モデル、背景作り (2 名)
4. アニメーション撮影 (3 名)
5. その他 (1 名) ※複数回答あり

理解出来たと思うものを選んでください。

1. 映像制作全般 (2 名)
2. 企画、シナリオ作り (3 名)
3. モデル、背景作り (3 名)
4. アニメーション撮影 (1 名)
5. その他 (0 名) ※未回答あり

時間

- ・もっと長いほうがよかった (7 名)
- ・ちょうどよかった (1 名)
- ・もっと短いほうがよかった (1 名)

CM 制作への参加

1. 是非参加したい (3 名)
2. できれば参加したい (4 名)
3. 参加しない (1 名)
4. ※未回答あり

その他 (自由記入)

- ・最終日に実際カメラで撮影出来てよかった。
- ・カメラの操作が出来て楽しかった。
- ・後半参加できなくて残念だった。



【ストップモーション撮影の様子】

4. 活動内容

③ プロトタイプ版 CM 制作 (分娩見守りシステム)

- 期間 : 平成 19 年 12 月～平成 20 年 3 月
- 場所 : 社会福祉法人まつえ友愛会
障害者支援施設ピー・ター・パン
- 参加者 : 11 名 (うち障害者 8 名)

- 委託先 : 1. 『編集作業・CM 音声編集』 Fairwind
- 2. 『CM 映像素材加工』 エイワシステム
- 3. 『アフレコ(声優)』 山陰プロダクション代表
小笹 伸輔氏 (他 2 名)

【企画概要】

本企画は株式会社ワコムアイティ様の開発された牛の分娩の見守りを行うシステム「遠報見聞録出産見守り版『分娩見守りシステム』」を題材にしたショートストーリーを映像化した CM。このシステムは、分娩間近の牛を遠隔地から確認できる機能を実現し、2 年前から販売を行い既に導入実績を有した商品である。

今回の CM 制作は、クレイ(粘土)を中心に様々な素材を使ったミニチュアモデルを作成し、ストップモーション撮影によって行った。制作には、昨年末までに開催した制作講座を受講した障害者 8 名が参加した。

【プロット】

軽トラックが病院の前に急ブレーキを踏んで止まる。軽トラックから農作業の服を着た男性が飛び出してくる。飛び出した男性は勢いよく病院の玄関に入っていった。

分娩室の前。

出産間際の女性のいきんでいる声が聞こえる。廊下で待つ義母に尋ねる夫。不安そうな夫をなだめる義母。

廊下にある椅子に男性と義母が心配そうな顔をして座る。

夫は手には携帯電話をもち食い入るように見ている。

「がんばれ！」夫の心の中で励ます。

(分娩室の女性のいきんでいる顔)

「もう少し・・・」夫の目が大きく見開く。

夫の顔の表情がゆっくり笑顔に変わる。

「よっしゃー!!! でかした花子!!!」

立ち上がって高々と携帯電話を持った手を突き上げる夫。

「花子？」横にいた義母が疑いの目でみる。

まだ頑張っている奥さん。

子牛が親牛の前で横たわっている。

「よかったなー、花子・・・」携帯の画面を見つめながらつぶやく夫。

「オンギャー」赤ちゃんの産声上がる。

「あっ 我に返る夫。「モ～～(親牛の泣き声)」

「遠方見聞録(とうほうけんぶんろく) シリーズ。分娩見守りシステム」

「ワコムアイティ」



4. 活動内容

【プロダクションノート】

1. 企画

最初に、依頼元ある株式会社ワコムアイティ様を訪問し、商品の説明や畜産に関する情報をヒヤリング。今回制作するCMの商品「遠報見聞録出産見守り版『分娩見守りシステム』」が実際どのように畜産現場で利用されているかはもちろん、牛の畜産の現状や運営状況なども併せて伺った。システムの特徴や農家が今抱えている課題などもわかり、今回のCMのプロット、コンテ作成に参考になった。その後シナリオ、絵コンテを作成。依頼元に確認。12月中旬に絵コンテが決定した。

2. 制作準備

12月に入り、11月に開催した制作講座の参加者のうちCM制作に参加してもらおうメンバーの選出を行った。選出際して、制作講座のあと参加の希望についてのアンケートも参考に、予想される制作には様々な工程、作業があり、作業と参加者の実施が可能かどうかを検討し決定した。

今回参加者が行う作業内容は、

[1] 映像の背景に使用する樹木等の作成

[2] キャラクターの衣装やトラックに貼るロゴ、マークのデザイン作成

に決定。作業方法は、グループワーク形式で取り組むこととした。

1月に入り、参加者の都合の調整および作業日程を決定。平行して今回作業に使用する様々な材料の調達も行った。使用する材料は、鉄道模型のジオラマ作成に使われるものを選定。当初は、身の回りにあるものを活用して作成することを考えていたが、障害者には難しい作業が発生すること、また仕上がりのクオリティをあげるにも時間がかかる事情から背景作りに特化した素材を選ぶことにした。



【今回使用したジオラマ模型用の材料(材料の一部)】

3. ミニチュアモデル作成

1月15日、使用する材料などを渡して作業の方法を説明。事前に試作した上で、単純作業だけではなかなか樹木らしくモデルができないこと、大きさによって使用する素材や量を調整する必要があることなどを説明した。

1週間後、樹木のモデルが完成。いろいろな形や色のものがあり、撮影にはその中から選定して使用することとなった。



【作成された樹木(一部)】

樹木より1週間遅れて、ロゴ・マークのデザイン案が到着。手書きのものやソフトで作成したものなど各3種類作成してもらった。その中から今回CMに使いたいデザインを選び後日データ化を依頼した。



【マークのデザイン原画】

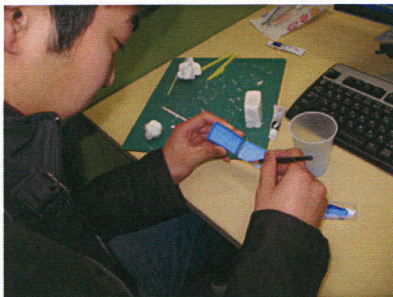
4. 活動内容

【プロダクションノート】

3. ミニチュアモデル作成（続き）

その他に、病院内のセットとして使用する、ゴミ箱、観葉植物の鉢を障害者の参加者の方に制作してもらった。ゴミ箱は、上部をカメラの小物を入れるプラスチックケースをアクリル絵具で塗装、下部を紙粘土で形を作り絵具で塗装した。ゴミ箱の四角い形をプラスチックケースの大きさに合わせてようにした。

観葉植物の鉢は、クレイ用の油粘土で作成。茶色の粘土を平らに伸ばして長方形に竹串などで切ります。それを筒状につなぎ、下の方をすぼめる。同様の方法で上部の鉢のふち部分を切り出し巻きつけて作成した。中心部分に木粉粘土を入れて再度鉢の形を整えて完成。この作業は、形を切り出したり、鉢の形を整形したりする点に苦心した。



【ゴミ箱の作成の様子】



【完成したゴミ箱】

平行して、今回のCMに登場する人物や動物の作成を行った。最初に、CMの舞台となる世界の縮尺を決め、そのサイズに合わせて登場人物の大きさを決定。

主人公の男性の身長を実寸170cm、モデルの大きさを19cmとした。つまり、約1/10強の縮尺。登場人物は、主人公の男性、その義理の母、病院の中の人4名、親牛と子牛。

人物のモデルの作成は、単に形ができていてだけでなく映像の中でどのような動きをするかによって作り方を調整しなければならない。例えば、座っているだけの人物であれば、足を動かす必要がないため曲がった状態をつくるだけでよいが、歩く、走る、座る、立ち上がるといった動作をさせる場合は、足はもちろん、腕や股関節、腰、首なども動くようにしなければならない。また、動きも縦横、上下、回転といった方向をもたせたり、同時に動かしたあと止まった状態を維持できる強度と柔軟性を両立させなければならない。さらに、動いている最中に骨の部分が表面から見えないようにする工夫も必要もある。

こうした様々な要件をクリアするための試行錯誤からはじまった。当初は、針金に粘土を付けるという単純な方法で試作したが、強度や粘土の耐久性、柔軟性から難しいということがわかり方向転換。針金をバネ状に巻いて、衣服で見えない部分は綿などで筋肉にし、露出部分は粘土で形成したものを差し込むという構造になった。これで体のつくりは、おおよそこのような方法で対応できることがわかった。

次に顔の表情を変える方法が大きな問題となった。一般にストップモーションアニメの世界で、表情を変える方法は目や口、眉とした変化する部分をかえた同一の頭部を作成し差し替えて撮影する。当初はこの方法で行う予定であったが、同一の頭部を作成するためには型を作る必要があり、試作すると、表情だけ違う同一の頭部を作成することは非常に難しいことがわかった。そこで、今回頭部のモデルをひとつにして、目、口、眉の部分を練り消しゴムで別作成し、それを張りかえることで表情変化させる方法に切り替えた。



【完成したクレイモデル】



【表情を換えるパーツと差し替えの様子】



【完成した牛の親子のモデル】

4. 活動内容

【プロダクションノート】

4. セット組立

今回のCMの主な舞台となる病院の中。壁や天井はスチレンボードと呼ばれる発泡スチロールをケント紙で挟んだ素材を使用。それに色の違う紙を貼り付けてコーディネートした。

分娩室の入り口のドアは壁の材質と異なるため別途作成。取っ手部分は金属風にするためプラスチック材を塗装した。塗装には微妙な色合いや均一な色を付けるためエアブラシを使用。

天井の照明器具については、モデルのデザイン性だけでなく実際撮影するときの照明にも影響するため、工夫が必要であった。例えば、ミニチュアで昔ながらの棒状の蛍光灯の再現は、非常に難しくなる。そこで今回はほぼ正方形の大きな面ライトの照明を再現することにした。半透明のプラ版を張り込みそこから廊下が照らされるように設定。カメラで見ると非常に病院の室内の雰囲気再現することができた。

最後までどんな素材で作るか決まらなかったのが床である。タイル張りの床を再現するために反射の質感の再現と同時に撮影時にモデルをそこに立てることを想定した作りしておかなければいけないという条件をクリアすることが必要となった。材料費を抑えるため100円ショップにあった薄い透フィルムをスチロールの床材に貼り付ける方法をとった。この方法である程度の質感を再現できたが、フィルムをのりや接着剤で固定できないため微妙な浮き上がりが出てしまうことになった。最終的にはカメラで撮影して違和感がない範囲で設置するという微妙な対応で切り抜けた。



【組み立てた病院のセット】

5. 撮影準備

撮影方法は、各カットで異なります。最初の軽トラックが病院の玄関先に停車するカットから主人公が病院の中に入るまでを3DCGとモデルの合成で行うことになった。これは、セットの作成時間とコストを考えた結果であったが、モデルと3DCGの背景がどの程度なじむかが懸念された。その他のカットは全てビデオカメラでセットによる撮影であるが、照明の違いやモデルを動かす際に背景が動いてしまうということが予想され、結果としてあとから背景とモデルを一度マスク処理し再度背景を合成する必要があった。

今回使用する機材は、制作実習で行ったものとほぼ同じものを使用。照明については、当初小型の蛍光灯スタンドやハロゲンライトの照明を使ってテスト撮影してみたが、セットの大きさと照度の問題、光の色温度のバランスから室内の照明をそのまま使用し、ビデオカメラのアイリスを調整することで雰囲気が出ることがわかった。蛍光灯を使用するためフリッカー（光のちらつき）と色かぶり（緑色になる）という問題が懸念されましたが、これは編集段階で対応することにした。



【制作準備の様子】

4. 活動内容

【プロダクションノート】

6. 撮影

撮影において、モデルを微妙に動かす難しさと、その作業を行う際に背景が動いてしまうということを痛感した。これは、事前に想定できたことだが、予想以上に今回作成したモデルの大きさが動きを付ける上では小さすぎたということ、作業によって多少手があたってもセットが動いてしまうことがわかった。また、モデルに中腰や歩く動きの中間ポーズで片足にする際の微妙なバランスをとる方法が問題となった。セットが狭くその中でポーズをとることの難しさが原因であった。結果として、針金で後ろから支え棒をつけカメラに映った場合はあとで画像編集ソフトを使用して消すことにした。

撮影の肝であるモデルの位置あわせは、撮影が進むにつれて感覚がつかめるようになった。ストップモーション撮影でモデルが自然に動いているように見えるためには、撮影の前後でモデルの位置や姿勢が繋がっていなければならない。撮影の前の状態と今の状態を同時に重ねてみる機能（スキン機能）がソフトにあるため、それを見ながら位置あわせを行った。この機能があるにもかかわらず、微妙な位置を捉えることが非常に難しく、経験が必要な作業であった。幸い、今回の撮影でリテイク（撮りなおし）の回数は少なくて済んだ。

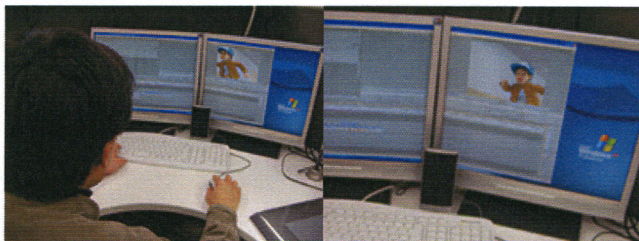


【撮影の様子】

7. 編集

撮影時の問題を編集に回した面が多く、編集作業は予想以上のボリュームと時間を要することになった。通常、編集は撮影した素材をつないで色や明るさ、速さの調整程度であるが、今回は編集に合成という要素が加わったため、撮影素材を編集上で使える素材に加工するということが必要であった。当初この作業は3DCGとの合成のみで想定していたが、結果、全てのカットで背景とモデルを切り分け（マスク処理）、改めて合成する必要があった。

最後に合成した各素材をつなぎ合わせ、動きの速さを1枚ずつの微妙な長さを調整していき、全体の色や明るさの統一、音声の挿入などを行った。音声は、地元の声優さんにご協力いただき、アフレコしたものである。



4. 活動内容

④ プロトタイプ版 CM 制作 (ふるさと応援 CM)

- 期間 : 平成 19 年 12 月～平成 20 年 3 月
- 場所 : 社会福祉法人まつえ友愛会
- 参加者 : 4 名 (うち障害者 2 名)

- 委託先 : 1. 『編集作業・CM 音声編集』 Fairwind
- 2. 『CM 映像素材加工』 エイワシステム
- 3. 『ナレーション』 山陰プロダクション代表
小笹 伸輔氏 (他 2 名)

【企画概要】

本企画は、ストップモーション撮影の中で人形やクレイモデルを使わず、地元の風景や代表する草木など自然物を定点カメラで撮影することによってできる映像を使用することを目指した。内容はふるさとを離れた地元出身者の方へのメッセージを含めたオリジナル CM。

この手法は、早稲田大学教授坂井滋和氏のアドバイスを受け、障害者でも簡単に撮影できること、またアイデア次第で、普段は見ることのできない映像世界を捉えることができることから、次年度以降にも本事業の主旨である障害者の方が映像制作に携わる方法として展望が望める可能性がある。

本 CM で撮影したストップモーションのモチーフには、地元島根県 (松江市) を代表するものとして

- (1) 宍道湖の夕日
 - (2) 牡丹 (島根県の県花) の開花
 - (3) 「八雲立つ」と称される山陰の雲の動き
- を取り入れることにした。

【プロット】

「ふるさとを離れたみなさんへ」

「ふるさとは、いつまでもかわらない・・・そう思っていないですか？」

ふるさと・・・自分が生まれた土地。郷里。こきょう。【広辞苑第六版より】

「前略」

「皆様いかがお過ごしでしょうか？」

「こちらは、いつもかわらず、みんなで力を合わせて頑張っています。」

「疲れたり、つらいことがあったときはふるさとを思い出してください。」

「ふるさとをいつまでも忘れないでください。」

「ふるさとの空の下から皆様のご活躍をお祈り申し上げます。」

「かしこ」

ふるさと・・・古くなって荒れはてた土地。古跡。旧都。【広辞苑第六版より】

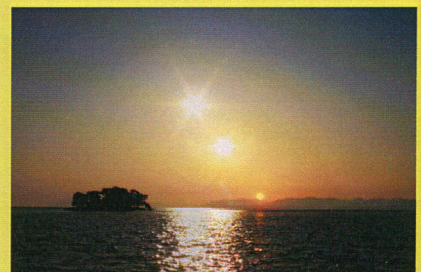
(一部省略)

「今ならまだ間に合います。」

「あなたにできることが、きっとあります。」

「みなさんの力を、お貸しください。」

「ふるさと応援 CM」



4. 活動内容

【プロダクションノート】

1. 企画

当初、地元の観光名所や特産品をPRするCMを企画した。島根県は出雲大社をはじめ松江城や隠岐、そして昨年世界遺産に登録された石見銀山など観光資源が数多くあり、特産品も宍道湖のしじみ、島根米、島根和牛など既に知名度があるものが豊富にある。

単に地元をPRするプロモーション映像であれば、一般の制作会社で作ったものが既にあること、また障害者の方が参加し、ストップモーションという手法を用いるということが大きな目的ということで、このような映像手法を活かせる内容ということが企画段階で大きな課題であった。

同時に、何をストップモーションさせるか？ということが重要でもあった。既に制作を進めているパペット（人形）を使ったCM映像とは違ったもの、ストップモーションで撮影する意味がある対象を選定しなければならなかった。

そこで今回は、県外の方に観光PRや特産品PRのではなく地元出身の方に向けたメッセージを送るという切り口の映像を制作することにした。撮影する対象は、特別講習会に来ていただいた早稲田大学の坂井先生のアドバイスを参考に、自然物、自然現象を一定時間撮影することに決定。被写体は地元を代表する「宍道湖の夕日」、島根県の県花でもある「牡丹の開花」、そして出雲を象徴する変化に富んだ「空の雲」。

2. 撮影

<宍道湖の夕日>

撮影は昨年の9月頃から開始。撮影には、一眼レフのデジタルカメラを使用。どのくらいの時間間隔で撮影すればよいかテストを行った。結果、30秒ごとに撮影。撮影前から想定していたが、夕日を撮影すると光量と色温度が刻一刻と変化するため連続でみたときにどうなるか、そして撮影開始時点では日没ポイントが正確にわからないため希望する構図にならないという問題に直面した。

結局計4回にわたって、夕日を撮影。夕日以外の空気の状態や雲の状態も日々異なるため、自然現象を撮影するのは並大抵でないことを実感した。



【宍道湖の夕日のストップモーション画像】

4. 活動内容

【プロダクションノート】

2. 撮影（続き）

＜牡丹の開花＞

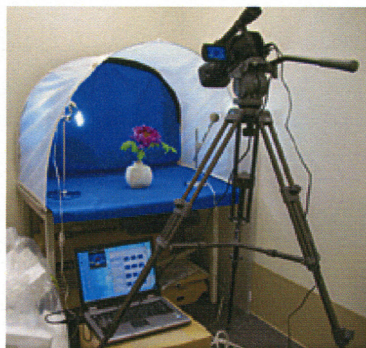
牡丹の花の開花する様子をストップモーション撮影する上で、時間はかかるとしてもそれほど難しいとは考えていなかった。ところが、牡丹の入手という準備段階からが問題が発生した。牡丹の花は主に4月～5月頃が主な見ごろで、寒牡丹というものはあるものの、時期を外すとなかなか調達するのはむずかしいことが判明。結局、松江市の農林課のご協力をいただくことができ、希望の牡丹の鉢を手に入れることができた。

撮影は、開花するまでの時間は室温を20度前後にして早くて1週間を予定。エアコンを24時間かけつづけ、5分間隔で撮影した。

ここでひとつ問題になったのは湿度。温度はともかくエアコンをかけ続けたため冬場ということもあり湿度が非常に低くなり花が萎れていく恐れがあった。映像に支障がでるため花に霧吹くこともできないためバケツに水をはり、霧吹きで室内全体に朝昼晩と噴霧という手段をとった。

もうひとつの問題は、蕾から撮影するため開花したときどのくらいの大きさでどの方向に向いて咲くのかということが予測できないということであった。カメラの方向や画角は一度撮影をはじめると動かせない。できるだけ花を大きく撮りたいということで、ある程度予測しながら最初のカメラのセッティングをしなければならなかった。

幸い、2回の撮影でうまく撮ることができた。かかった時間は合計で2週間以上。撮影枚数は5000枚以上にのぼった。



【牡丹の開花を撮影している様子】

＜雲の撮影＞

雲の撮影は「牡丹の開花」「宍道湖の夕日」に比べ容易に撮影できた。冬の山陰は雲が多く、雪や雨が降らず立体感のある雲がでた日を狙って撮影。雲の動きは、わかりやすく速さも手ごろであるため狙った時間にカメラを向けて撮影。5秒間隔と多めに撮影した。ただ撮影のとき、冬の天候が変わりやすく、風もあったためカメラが揺れたり、にわか雨（雪）に濡れないように気をつけて行った。



【撮影した雲の画像の一枚】

4. 活動内容

【プロダクションノート】

3. 収録および編集

今回の映像の中で、ナレーションは、地元で役者やナレーションをされている方にご協力いただくことができた。収録当日に原稿をお渡ししてぶっつけ本番の収録。こちらの注文にも誠実に対応いただき、素晴らしいナレーションを収録することができた。

今回撮影した素材のうち、牡丹の花と雲の動きは合成作業を行う必要があった。牡丹の花はブルーバックで撮影し、背景を抜く作業を行った。それ以外のストップモーション撮影した素材についても、加工して使用する必要があった。



【収録の風景】

⑤ Web サイト構築

- 期間 : 平成 19 年 12 月～平成 20 年 1 月
- 場所 : 社会福祉法人まつえ友愛会
- 参加者 : 2 名 (うち障害者 1 名)

- 委託先 : 『サーバ環境整備・サイトデザイン・CMS 設定』
(株)ワコムアイティ

今回制作したプロトタイプ版 CM は、インターネットによる配信を計画しており、そのプラットフォームとしての Web サイトの構築を行った。通常の Web サイトと異なり、CMS(コンテンツマネジメントシステム)をベースにした Web システムを導入した。通常 Web サイトは、ホームページ作成ソフトを使用して HTML ファイル作成したのち Web サーバへ転送するという流れで作成されるが、CMS の場合サーバ上に Web サイトの管理システムを構築することで、通常 Web サイトを閲覧するために使用するブラウザソフトからコンテンツを登録、修正、削除といった管理をすることが可能となるものである。CMS によって特殊なソフトを使用せず Web サイトを作成、管理することができるため障害者でも簡単に構築作業に参加することができた。実際に今回も障害者 1 名が参加して Web サイト構築を行った。また、インターネットに接続された環境があれば、作業場所や時間の制約もなくコンテンツ作成が出来る点も大きなメリットとなった。

このように CMS をベースにした Web サイトを構築することで、今後本事業を展開する上で Web サイトの運用がしやすい環境が整備されたことは大きな成果といえる。



【完成した Web サイト】

4. 活動内容

⑥ 事業報告会

- 期間 : 平成 20 年 3 月 2 日 (日) 10:00 ~ 12:00
- 場所 : 社会福祉法人まつえ友愛会
- 内容 : (1) 計画された事業内容および進捗報告
(2) 本事業の成果と課題について
(3) その他

- 参加者 : 障害者支援施設ピー・ター・パン 5 名
(株)ワコムアイティ 3 名
映像クリエイター 山本崇氏
クレイモデルアーティスト 谷あい氏
社会福祉法人まつえ友愛会 利用者 4 名、職員 3 名

本事業の総括として、参加した障害者の方々および協力していただいた企業、個人の方を交えて事業報告会を開催した。プロトタイプ版 CM がまだ完成していない状況であったが、現在までの事業の進捗状況およびこの事業における成果と課題について報告を行った。また、参加者から本事業についての意見や感想なども聞きながら今後の事業実施の参考とさせてもらった。成果と課題については後述の【本事業の成果・反省】を参照のこと。

5. 活動の成果・課題

本事業を総括し、以下のような成果および課題があった。

成果

- (1) 映像制作に興味はあっても機会に恵まれなかった障害者の方にその機会を提供できた。参加者のほとんどが映像制作が初めてということもあり、慣れない用語や概念もあったが、制作講座の実習では積極的に自分のできる作業に取り組んでもらえた。
- (2) ストップモーションという技法を使った映像制作に障害者が参加する場合、やり方次第で有効であることがわかった。今回制作した CM にも使用した地元の地域資源である観光名所や景観、特産品などを継続的に撮影する方法は、ストップモーション撮影の中でも障害者が制作に携わる上でより効果的であると思われる。
- (3) 2 本の CM 映像を制作することができたことで、これらをプロモーションツールとして活用し、新たな展開ができる基礎を築くことができた。
- (4) CMS(コンテンツマネジメントシステム)をベースとした Web サイトを構築、それにより情報発信自体の作業に障害者が参加することが可能になった。また、現在新たなメディア展開として注目されている動画のインターネット配信という手法を継続的に行うことが可能となり、低コストで広範囲に映像配信する環境が整備できた。
- (5) 本事業を通じて、実施主体である当事業所以外の福祉施設や民間企業、個人クリエイターと連携して映像制作を行った結果、就労支援の社会的な広がり、協力体制の枠組みが期待できた。

課題

- (1) 障害種別、障害の状況によって携わることができる作業が様々であり、各々の映像制作内容によって求められる技術や作業とのバランスの見極め、分担作業の切り分け、作業方法の検討という面が常に課題として発生する。
- (2) 障害者が携わる場合、各種作業に時間がかかる場合が多い。またストップモーションという技法自体が膨大な時間がかかる。制作業務を請け負った場合、制作全体に時間的制約が発生し、前述の 2 点の課題と整合させる手段を新たに検討し導入する必要がある。>>> その解決方法として事前に様々なストップモーション映像をライブラリ化し、それを活用して映像制作することを考えている。
- (3) クレイモデルやパペットを使った場合、細かな動きや映像のクオリティを上げるために撮影スタジオのような広い作業環境を必要とする。また、この種の制作の場合、障害種別によっては限定された作業しか携わることが難しい面がある。
- (4) 制作にかかわる人が増えた場合、制作物の著作権処理の問題が発生する可能性がある。〇〇制作実行委員会のような著作権を集約するような仕組みも今後検討する必要がある。

6. 事業関係者一覧

社会福祉法人

社会福祉法人ふらっと
障害者支援施設ピー・ター・パン

地方公共団体

島根県
松江市
松江市産業経済部農林課
花卉生産振興センター
松江市環境保全部清掃業務課

個人

早稲田大学教授	坂井 滋和
ディレクター	安部 裕子
映像クリエイター	山本 崇
クレイアーティスト	谷 あい

民間企業

株式会社ワコムアイティ
エイワシステム
Fairwind
山陰プロダクション

7. 謝辞

本事業の終了にあたり、これまで各方面からご協力いただきました皆様に改めて御礼申し上げますとともに、新たに始まりました障害者の就労支援の取り組みに、今後も引き続き皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人まつえ友愛会
障害福祉サービス事業所 you 愛
プロジェクトマネジャー 安部 敬史



社会福祉法人
まつえ友愛会
障害福祉サービス事業所 you愛

〒690-0824

島根県松江市菅田町 438-1

TEL : 0852-24-1117 FAX : 0852-24-1126

e-mail : info@m-youi.jp URL : <http://m-youi.jp>